

Newsletter

Institute for Legal Studies

Kanagawa University

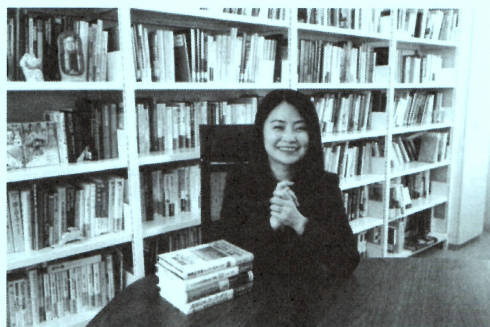
No.28

June, 2022

巻 頭 言

世界の潮目の変化の中で生きぬくために

大庭 三枝



昨年、前所長の井上匡子先生から引き継ぎ、法学研究所所長に就任してから早一年が過ぎました。また昨年度末の所長選挙で再任が決定され、この4月から2年間、引き続きこの役職に就くことになりました。引き続き常任委員や所員の方々の助力を得ながら、皆様の円滑な研究の遂行に資するような研究所の運営に尽力したいと考えています。よろしくお願いします。

私の専門は国際政治学です。そして国際社会の様々な事象を、ドラマか映画のように自分とは遠くで起きている出来事として傍観するのではなく、「自分事」として観ることが重要だと考えています。

今、世界は大きく揺れています。2010年代を通じて米中間の戦略的競争は加速し、特に東アジアの情勢はその影響を直接受け不安定化しています。それに加え、2020年初め頃から世界に感染が広がった新型コロナウイルスの収束もまだめどが経たっておりません。大きく打撃を受けた世界経済をどう立て直すかは喫

緊の課題です。さらに今年2月のロシアのウクライナへの軍事侵攻に始まった戦争は、ヨーロッパを越え、世界に大きな衝撃を与えています。ロシアの行為は、一言で言えば、これまで秩序の安定のためになしてきた国際社会の取り組みを否定し、踏みこめるものです。そしてこの戦争は、冷戦終結後、国際社会が比較的安定し、その安定の下で人々がグローバル化の恩恵を存分に享受できた時代が去りつつあることを象徴する出来事でもあります。またこのグローバル化の深化拡大は世界経済に繁栄をもたらした一方、環境への負荷の増大や世界各国において格差拡大をもたらし、社会を不安定化したという負の側面があったことも無視できません。それらにどう対応するかも国際社会及び各国の大きな課題となっています。

我々は今、世界のこうした潮目の変化に直面しています。これらを自分たちが生きる、また今後生きていく環境が大きく変動しているのだと捉え、そして自らの選択や判断、それに基づく行動が今後の国際秩序のありようにも影響を与える、こうした市民としての自覚がより求められている時代なのです。国際社会により関心を持ち、その上で選択や行動をしてくださる方が少しでも増えるよう、研究者、および大学の教員として、微力ながら自分の出来ることに努めていきたいと考えています。

(法学部教授・法学研究所 所長)